

# 身につけさせたい5つの癖

6回にわたり新入社員をどうすれば戦力化できるかを解説してきたが、最終回は総まとめとして、最も大切なことを述べたいと思う。それは新入社員につけさせたい「5つの癖」についてである。

ビジネスパーソンの仕事の仕方、発想の仕方は、ビジネスの世界に入った最初の3年くらいの間にある程度固まってしまう。その上に新たな経験や学びを積み上げていきはするが、あくまでも初めのころにできあがったものがベースとなって、その人の個性になっていく。

入社から3年の間に「仕事ができる人になるための癖」をきちんとつけないと、後になってからは取り返しがつかないことになる。そのためには、職場の上司や先輩が、一つ一つの仕事を通じて、正しい癖をつけるように新入社員たちを導いてい

かななくてはならない。

私が提唱している新入社員時代に身につけるべき5つの癖は「目的を大切に作る癖」「人と協力する癖」「武器を増やす癖」「計画して取り組む癖」「自分軸で考える癖」である。以下に一つ一つのくせについての指導ポイントをあげていく。

「目的を大切に作る癖」は、一つ一つの仕事に漫然と取り組むのではなく、常にその目的を意識して仕事をする癖をつけること。会社や組織の存在意義（企業理念など）を理解し、自分の未来の成功イメージを持って取り組むことである。

「人と協力する癖」は、協力してもらいやすい人物になること。そのためには、常に正直にオープンマインドで周囲と接すること、一緒に仕事をする人を理解するように努めること、「報・連・相」の達人になるこ

## ここがポイント 新人戦力化

とが必要である。

「武器を増やす癖」は、日ごろから自ら学ぶ習慣をつけること。決めたことをこつこつと毎日続ける意志力を持ち、身に付けた知恵を当たり前のように仲間と教え合い共有をできるようにすることである。

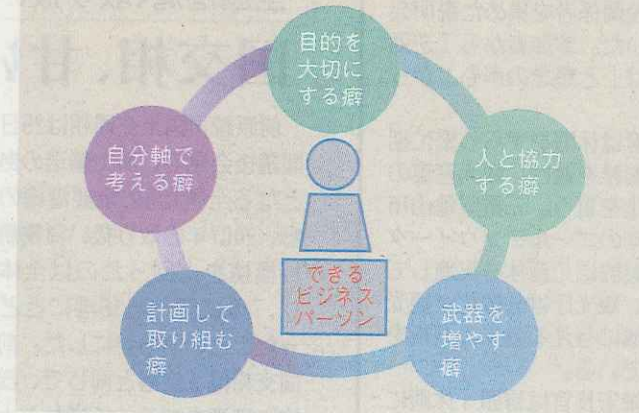
「計画して取り組む癖」は、優先順位を決めて何が一番大切かを意識しながら仕事すること。納期から逆算したスケジュールが頭に浮かぶように、時間の使い方や効率を考えられるようにすることである。

最後の「自分軸で考える癖」は、若さを武器にして失敗を恐れずに自分を出すこと。自分自身で考える癖をつけ、何事にも当事者意識を持つことである。

いまの・せいいち 日本リクルートセンター（現リクルート）、リクルートコスモス（現コスモスイニシア）を経て1998年組織人事コンサルティング会社「マングローブ」設立。著書に『マングローブが教えてくれた働き方』（P-VineBOOKs）。

マングローブ 今野誠一  
代表取締役社長

### 新入社員に付けさせたい5つの癖



これらは仕事ができるビジネスパーソンになるための原理原則であり、最初の時期に身につけると、どんな仕事でも、どんなポジションでも応用がきくようになる。職場の上司と先輩

も、新入社員への指導を通じて自分自身を振り返ることで、職場全体をチームとしてレベルアップさせていくことができるのではないだろうか。

＝終わり